

事務事業名		水道事業予算、決算調製事務			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業		
政策体系	政策名	01 潤いに満ちた快適な都市環境の創造			事業期間		予算科目		
	施策名	02 良好な生活空間の創造							
	基本事業名	02 上水道・簡易水道の整備							
所 属	根拠法令	地方公営企業法			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和29 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入	水道	01	01	04
	部課名	水道事業所							
	係 名	庶務係	電話	0192-27-3111					
			内線	172					
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 水道事業の予算(業務の予定量、収益的収入及び支出の予定額、資本的収入及び支出の予定額、企業債 予定額、予算に関する説明書)及び決算(決算報告書、損益計算書、剰余金計算書または欠損金計算書、 剰余金処分計算書または欠損金処分計算書、貸借対照表、決算付属書類)の調製を行い、経営状態を正確に 把握し、健全な事業運営を図る。 事業費は、企業会計システムにかかる保守委託料と賃借料、予算書及び決算書の印刷製本費等である。					全体計画(期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0				

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
財務諸表や各種資料等を作成し、予算書(次年度当初及び当年度補正)、決算書(前年度)を作成する。		ア	水道事業会計決算書(前年度)
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	水道事業会計予算書(次年度当初)
前年度に同じ		ウ	水道事業会計予算書(当年度補正)
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
水道事業会計		名称	
		単位	
		カ	総収益
		キ	総費用
		ク	資本的支出額
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
経営状態を把握し今後の経営指標とすることで、水道事業会計の健全性が維持される。		名称	
		単位	
		サ	供給単価
		シ	給水原価
		ス	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
安全な水が安定して供給される。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
投入量	事業費	単位						
		千円						
事業費	財源内訳	千円						
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円	692	841	685	561	623	622
	一般財源	千円						
	事業費計(A)	千円	692	841	685	561	623	622
人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
	延べ業務時間	時間	845	929	900	900	900	900
	人件費計(B)	千円	3,380	3,716	3,600	3,600	3,600	3,600
	トータルコスト(A)+(B)	千円	4,072	4,557	4,285	4,161	4,223	4,222
活動指標	ア	頁	49	49	49	49	49	49
	イ	頁	26	26	28	26	26	26
	ウ	頁	17	15	17	16	0	0
対象指標	カ	千円	595,162	595,128	603,870	583,253	579,738	590,402
	キ	千円	526,100	529,860	535,878	540,594	539,447	526,266
	ク	千円	511,265	507,267	328,540	594,964	546,191	263,598
成果指標	サ	円	170.77	170.90	170.37	170.88	170.56	170.12
	シ	円	155.77	158.24	160.41	164.11	164.13	157.32
	ス							

事務事業ID	0316	事務事業名	水道事業予算、決算調製事務
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 昭和29年4月、水道事業の開始による。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 大船渡市水道事業経営変更認可(平成14年3月26日 岩手県指令環保第1-6号)にもとづき、大船渡市水道事業中期経営計画(計画年度:平成19年度から23年度)において、平成25年度の供用開始を目指し第4浄水場建設が計画されており、22年度から浄水場本体の建設に着手する予定であったが、景気の低迷等により水需要の伸びが計画策定当初と異なってきたことや毎年度における計画的な施設更新や漏水対策等が功を奏し、当面は現有施設での供給能力で対応が可能であるため、今後の水需要の動向や、近い将来分譲開始される「永浜・山口地区工業用地」への企業進出状況を見極めながら整備時期の再検討をしている状況である。			
総務省における「地方公営企業会計制度等研究会」において、地方公営企業会計制度等研究会報告書(平成21年12月24日付)がまとめられ、昭和41年以来となる大規模な地方公営企業会計制度の見直しが検討されている。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由]  予算、決算を調製し水道事業会計を把握することにより健全な事業運営が図られ、その結果、市民に安全で安定した飲料水を供給することにより、快適な都市環境の向上が図られる。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由]  水道は公営事業で地方公営企業法が適用となり、市で行う必要がある。
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由]  対象は水道事業会計であり、意図を含め妥当である。
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由]  将来の財政計画策定等に活用しており、成果は現れている。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容]  地方公営企業法に定められており、廃止・休止は出来ない。
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある  (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由]  現状では他の手段は考えられない。 ☒ 他に手段がない [理由] 
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由]  電算システム等の費用であり、これ以上の削減余地はない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由]  現状ではこれ以上の人件費の削減は難しい。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由]  最終的には水道料金に転嫁されている。

事務事業ID	0316	事務事業名	水道事業予算、決算調製事務
--------	------	-------	---------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 水道事業会計予算、決算は、毎年度適切に調製されており、経営指標として健全な事業運営に活かされている。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 今後とも健全な水道事業会計を維持する。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 水道事業会計の主な収入源である給水収益は、景気の低迷等により当面大きな伸びを期待できないことから、未納者対策、徹底した経常経費の節減及び事務事業の効率化を図り、今後増大する事業費に対応する必要がある。																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	水道事業所長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由									
目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																						
効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容)		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持			×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
